

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 77人 | 算数 | 77人 | 理科 | 77人 |
| 第5学年 | 国語 | 73人 | 算数 | 73人 | 理科 | 73人 |

#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

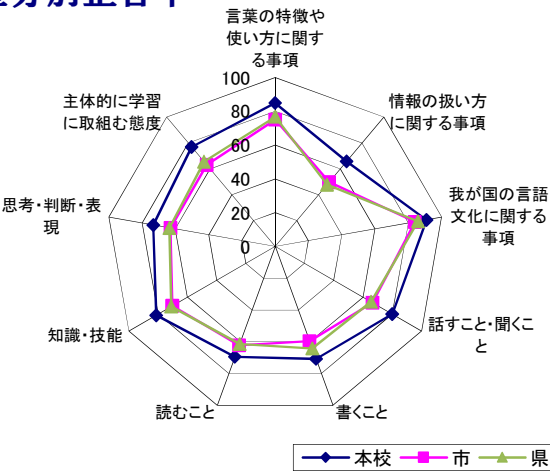
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 84.9 | 75.1 | 76.7 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 65.8 | 49.6 | 47.8 |
|     | 我が国の言語文化にに関する事項  | 90.9 | 84.0 | 85.9 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 80.0 | 66.5 | 65.5 |
|     | 書くこと             | 70.8 | 59.6 | 64.2 |
|     | 読むこと             | 69.5 | 62.2 | 61.5 |
| 観点  | 知識・技能            | 81.3 | 70.2 | 71.1 |
|     | 思考・判断・表現         | 73.3 | 62.9 | 63.6 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度    | 76.9 | 63.0 | 65.5 |



★指導の工夫と改善

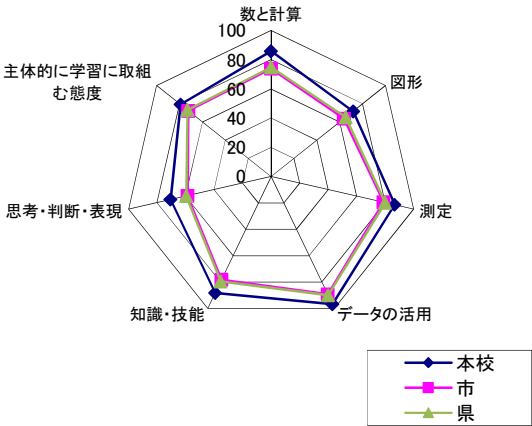
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                | 今後の指導の重点                                                                                                           |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は、県の平均よりも8.2ポイント、市の平均よりも9.8ポイント高い。<br>○漢字を正しく読んだり書いたりすることがよくできている。単元ごとに小テストをしたり習った漢字を文章の中で使ったりする指導を続けた成果と考える。<br>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、校内平均正答率が49.4%であった。                | ・漢字ドリルや小テストを活用して反復練習を行い、定着を図っていく。<br>・説明的文章の学習で、段落の役割について理解を深めるようにする。                                              |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は、県の平均よりも18ポイント、市の平均よりも16.2ポイント高い。<br>○国語辞典の使い方をよく理解している。意味調べ等で、日頃から国語辞典を活用している成果と考える。<br>○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けている。                                                     | ・今後も国語辞典を日常的に活用するように指導していく。<br>・「読むこと」「話すこと・聞くこと」の単元で、情報と情報の関係性を、語や文、内容等を結び付けて考えられるような指導をする。                       |
| 我が国の言語文化にに関する事項  | 平均正答率は、県の平均よりも5ポイント、市の平均よりも6.9ポイント高い。<br>○漢字のへんやつくりをよく理解している。新出漢字を学習するときにへんやつくりについて確認することを続けた成果と考える。                                                                                  | ・今後も漢字の成り立ちや部首に着目しながら漢字への理解を深めていく。                                                                                 |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は、県の平均よりも14.5ポイント、市の平均よりも13.5ポイント高い。<br>○「話の中心を明確にするための話し手の工夫について捉える」ことがよくできた。<br>○「相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話す」ことの正答率が87%で市の平均を17.1ポイント上回った。自分の考えを話すときに理由を添えることを日常的に行っている成果と考える。 | ・発表や話し合い活動の場における聞き方・話し方の指導や、国語の授業での「話す・聞く」単元での学習を通して、話の内容の中心を捉えて話したり聞いたりできるようにしていく。<br>・今後も理由を添えて自分の考えを話すことを続けていく。 |
| 書くこと             | 平均正答率は、県の平均よりも6.6ポイント、市の平均よりも11.2ポイント高い。<br>○自分の考えを書く設問では、自分の立場を明らかにし、それを支える理由や事例を明確に書くことができていた。<br>●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことについては、校内平均正答率が49.4%と課題が見られる。                           | ・自分の考えとそれを支える理由との関係を明らかにして文章を書く機会を増やしていく。<br>・説明・報告する文章を書く際は、文章構成を意識して書くことができるよう指導する。                              |
| 読むこと             | 平均正答率は、県の平均よりも8ポイント、市の平均よりも7.3ポイント高い。<br>○説明的文章では、全体的に内容を正しく読み取ることができている。<br>●文学的文章では、登場人物の気持ちを読み取ることはできているが、場面の様子を読み取る問題は、校内平均正答率が28.6%と課題が見られる。                                     | ・文学的文章では、登場人物の気持ちだけでなく、叙述から場面の様子を読み取れるように時間を確保し丁寧に指導する。<br>・読書活動を推進し、表現力が豊かな文章にふれる機会を増やす。                          |

宇都宮市立峰小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算          | 85.9 | 73.8 | 74.8 |
|     | 図形            | 71.7 | 63.7 | 65.3 |
|     | 測定            | 86.8 | 78.9 | 80.1 |
|     | データの活用        | 96.8 | 89.3 | 90.0 |
| 観点  | 知識・技能         | 88.4 | 78.3 | 79.5 |
|     | 思考・判断・表現      | 70.5 | 58.6 | 59.5 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 79.1 | 72.3 | 73.1 |



★指導の工夫と改善

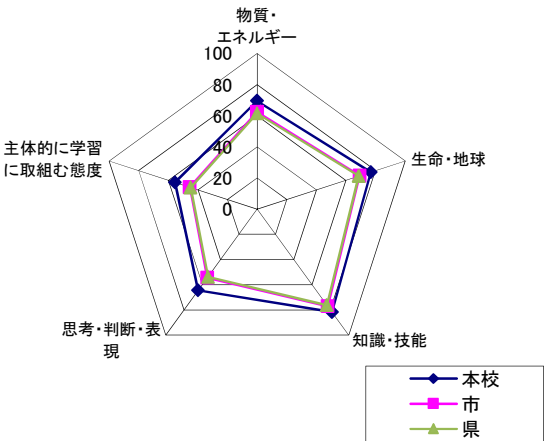
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                               |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は、県の平均よりも11.1ポイント、市の平均よりも12.1ポイント高い。<br>○「数と計算」の領域の設問では、全て県や市の平均正答率を上回っている。<br>●「整数ー小数第一位の計算」では、平均正答率が、市及び県の平均正答率を上回っているものの、66.2%であり、習熟が必要である。                  | ・新しい単元に入る前には、レディネステストを行ったり、導入で前学年での内容確認を行ったりする。<br>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。                                    |
| 図形     | 平均正答率は、県の平均よりも6.4ポイント、市の平均よりも8ポイント高い。<br>○円と球・三角形の設問では、コンパス等の使い方を理解し作図することができている。<br>●「円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する」設問では、校内平均正答率が18.2%であり、理由を説明することが課題である。 | ・円の半径・直径について理解を深め、作図をするだけでなく、キーワード等を使って自分の言葉で説明する機会を増やす。<br>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。                           |
| 測定     | 平均正答率は、県の平均よりも6.7ポイント、市の平均よりも7.9ポイント高い。<br>○「測定」の領域では、全て県・市の平均を上回っている。<br>●「身近にあるものの重さを推察して、適切な単位を使って表すことができる。」の設問は、市の正答率を上回っているものの、74%と課題が見られる。                     | ・重さの推察や適切な単位を使うことができるよう、実際に単位の量を感じられるような授業を展開する。<br>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。                                   |
| データの活用 | 平均正答率は、県の平均よりも6.8ポイント、市の平均よりも7.5ポイント高い。<br>○「表とばうグラフ」の設問では、校内平均正答率が95%以上で、県と市の平均正答率を上回っている。                                                                          | ・ばうグラフにおいて、1目盛りの表す数を捉え、最大値や最小値、全体的な特徴も捉えられるように、AIDリルやワークシートなどを活用して、繰り返し問題を解くようにする。<br>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。 |
|        |                                                                                                                                                                      |                                                                                                                        |

宇都宮市立峰小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー      | 69.5 | 62.5 | 61.5 |
|     | 生命・地球         | 76.8 | 69.2 | 68.6 |
| 観点  | 知識・技能         | 81.7 | 77.2 | 76.3 |
|     | 思考・判断・表現      | 64.6 | 54.4 | 53.7 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 55.5 | 45.5 | 44.9 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                          | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                         |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | 平均正答率は、県の平均よりも8ポイント、市の平均よりも7ポイント高い。<br>○「知識・理解」を問う設問は、よくできている。<br>●「思考・判断・表現力等」を問う設問では、県や市の平均を上回っているものの、資料から考えたり、理由を記述したりすることの正答率が低く課題である。                                                                                      | ・授業で、課題・予想・仮説・実験・結果・考察の学習過程を児童に意識させるとともに結果を自分の言葉でまとめるといった学習活動を続け、様々な物質やエネルギーの性質を正確に捉えて理解ができるよう支援する。<br>・フォローアップシートを活用し、習熟を深める。                                                   |
| 生命・地球    | 平均正答率は、県の平均よりも8.2ポイント、市の平均よりも7.6ポイント高い。<br>○「知識・理解」を問う設問は、よくできている。<br>●「虫眼鏡の使い方を身に付けている。」の設問では、県の平均正答率を下回っており、45.5ポイントであった。<br>●「日なたとひかげの地面の温度のようすをもとに、日傘の下のほうが涼しく感じる理由を推測できる。」の設問では、県の平均正答率を15.2ポイント上回っているが、校内平均正答率は、49.4%である。 | ・身の回りの自然現象に対しての疑問をもとに学習課題を設定し、正しい方法で観察したり、用具の使い方について理解したりできるようにする。<br>・日なたと日かげの特徴をまとめるだけでなく、比較しながら違いを理解できるような授業展開を工夫する。また、違い等を自分の言葉で説明する機会を多く設けるようにする。<br>・フォローアップシートを活用し、習熟を深める |
|          |                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                  |

## 宇都宮市立峰小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強をされていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」と回答した児童の割合は89.6%、「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と覚えることがある」と回答した児童の割合は、89.6%、「授業を集中して受けている」と回答した児童の割合は、96.1%である。集中して授業に臨んだり、学んだことから新たな疑問をもつなど、学習に意欲的に取り組んでいる児童が多い。今後も、楽しく、分かる授業を展開し学習する楽しさを味わえるように指導していく。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の設問では、県の平均よりも9.8ポイント、市の平均よりも5.9ポイント上回っている。授業だけでなく、持ち帰って分からないところを一人一台端末を活用して調べている児童が多い。今後も、調べ学習の他にも、話し合い活動やドリル学習など、様々な場面で一人一台端末を活用していく。

○「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童の割合は85.7%と高く、児童を認め励ます教育を推進するとともに、友達のよさを伝え合う活動を通して、自尊感情の育成に努めている成果と考える。今後も、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していきたい。

○「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は88.8%、「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」と回答した児童の割合は96.1%である。将来に向けての夢や目標をもっている児童が多くいる。目標に向かって努力し、達成する喜びを味わう機会を多くし、目標を実現できるよう小さな成功体験を積み重ねていけるよう指導していく。

○「自分は、家族の大切な一員だと思う」「家でのかまりや約束を守っている。」の問いに対する肯定的回答の割合は、それぞれ92.2%、90.9%である。このことから、児童が各家庭で大切にされていることと、家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが伺える。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」と回答した児童の割合は、55.8%であり、これは県の平均よりも14.9ポイント、市の平均よりも12.1ポイント下回っている。自ら計画を立て遂行できるように声掛けをするとともに、家庭と連携し児童が自分で決めたことを継続してできる力を伸ばす指導を推進していきたい。

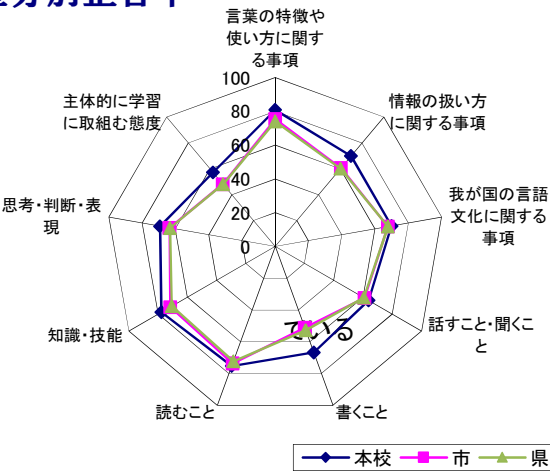
●「1か月に、何さつくらい本を読みますか。(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)」の設問では、1か月に3さつ以上読む児童の割合が62.7%であり、県の平均よりも8.9ポイント、市の平均よりも8.5ポイント下回っている。児童同士で本の紹介をしたり、読書をする時間を設けたりするなど、本に親しむ活動を増やす。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の問いに対する肯定的回答は59.9%である。「クラスは発言しやすい雰囲気である」の問いでは、83.1%の肯定的回答が得られたことから、発表後、称賛する場を設けたり、小グループでの話し合いから全体での話し合いへと段階を踏むことで、自分の考えや発表に自信をもてるよう働きかけていきたい。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 80.8 | 75.4 | 74.1 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 69.9 | 60.5 | 60.2 |
|     | 我が国の言語文化にに関する事項  | 69.9 | 67.7 | 67.8 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 63.8 | 61.0 | 60.7 |
|     | 書くこと             | 66.8 | 51.2 | 52.8 |
|     | 読むこと             | 75.3 | 73.7 | 72.4 |
| 観点  | 知識・技能            | 77.7 | 71.7 | 70.6 |
|     | 思考・判断・表現         | 69.2 | 63.5 | 63.2 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度    | 57.3 | 48.2 | 48.1 |



★指導の工夫と改善

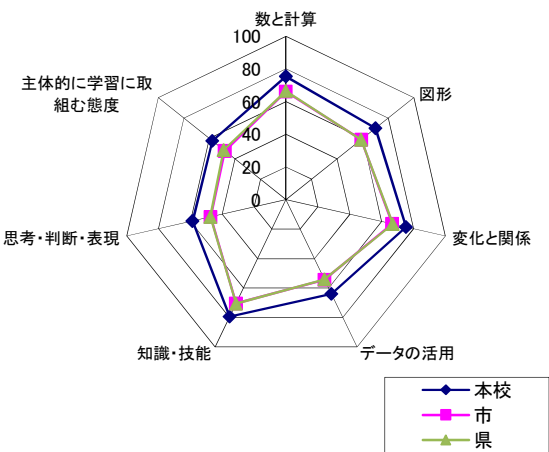
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                  | 今後の指導の重点                                                                                                                     |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は、県の平均を6.7ポイント、市の平均を5.4ポイント上回っている。<br>○漢字を正しく読んだり書いたりすることがよくできている。単元ごとに小テストを行ったり、習った漢字を文章の中で使うように指導した成果と考えられる。<br>●修飾語の理解については、平均正答率が32.9%となっており、課題が見られる。                          | ・今後も、漢字ドリルや定期的な小テストを活用して反復練習を行い、定着を図っていく。<br>・物語文や説明文を学習する際に、文の構成や語句の係り方に目を向けて内容を正しく読み取れるように指導していく。                          |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は、県の平均を9.7ポイント、市の平均を9.4ポイント上回っている。<br>○漢字辞典の使い方をよく理解している。日頃から漢字辞典を活用している成果と考える。<br>○説明文の中心となる語や文を見つけて要約することがよくできている。<br>●情報と情報との関係について理解し、理由や事例を挙げて話すことに課題が見られる。                   | ・今後も、漢字辞典を使って意味調べを行うなどの活動を継続していく。<br>・「読むこと」「話すこと・聞くこと」の単元で、情報と情報の関係を捉え、それらを結び付けて考えられるような指導をしていく。<br>・説明文を扱ったプリントを使用し、習熟を図る。 |
| 我が国の言語文化にに関する事項  | 平均正答率は、県の平均を2.1ポイント、市の平均を2.2ポイント上回っている。<br>●「ことわざの意味を知り、正しく使うこと」については、県の平均正答率を上回るものの、69.9%と課題が見られる。                                                                                     | ・ことわざの意味を調べてまとめたり、友達同士で問題を出し合ったりする活動を通して、ことわざについての理解を深め正確に使えるようにしていく。                                                        |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は、県の平均を3.1ポイント、市の平均を2.8ポイント上回っている。<br>○「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」については、平均正答率が89%と高く、よくできている。<br>●「話し合いの中で、意見の相違点に着目して考えをまとめること」に課題が見られる。                                          | ・国語の授業はもとより、他教科の授業でも、意見の共通点や相違点に着目して自分の考えをまとめ、伝えることができるように指導していく。                                                            |
| 書くこと             | 平均正答率は、県の平均を14ポイント、市の平均を15.6ポイント上回っている。<br>○段落の役割を理解し、2段落構成で指定された長さの文章を書くことができている。日記や作文で、段落に分けて文章を書くことの指導を継続して行っている成果と考えられる。<br>●「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを区別して書くこと」については、平均正答率が56.2%にとどまった。 | ・今後も、段落に分けて文章を書く指導を継続していく。<br>・学習の中に書く活動を多く設定し、理由や事例などを挙げながら自分の考えを書くことができるようにしていく。                                           |
| 読むこと             | 平均正答率は、県の平均を2.9ポイント、市の平均を1.6ポイント上回っている。<br>○説明的文章では、全体的に内容を正しく読み取ることができている。<br>●「登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている」については、平均正答率が34.2%と低く、課題が見られる。                                                  | ・物語文では、登場人物の気持ちだけでなく、叙述から登場人物の性格や場面の様子が読み取れるように時間を確保し丁寧に指導する。<br>・読書活動を推進し、表現力が豊かな文章にふれる機会を増やす。                              |

宇都宮市立峰小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算          | 75.4 | 66.1 | 66.4 |
|     | 図形            | 70.1 | 58.9 | 58.8 |
|     | 変化と関係         | 75.3 | 66.6 | 67.0 |
|     | データの活用        | 64.0 | 54.4 | 54.2 |
| 観点  | 知識・技能         | 79.4 | 70.4 | 70.6 |
|     | 思考・判断・表現      | 58.6 | 47.2 | 47.5 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 57.7 | 47.8 | 48.8 |



★指導の工夫と改善

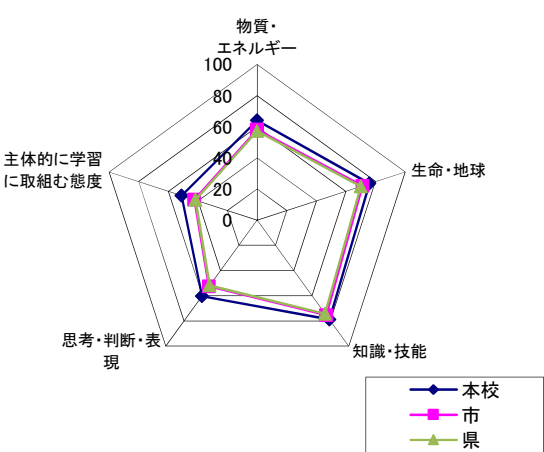
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                            |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は、市の平均を9.3ポイント、県の平均を9ポイント上回った。<br>○分数の計算の設問では、校内正答率が90.4%で、県の平均を10.3ポイント上回った。<br>●分数の大小比較の設問では、正答率が42.5%で、県の平均を0.4ポイント下回った。                                  | ・分数の大小比較の定着を深めるために、デジタル教科書や具体物を用いながら授業を行う。<br>・新しい単元に入る前に、既習事項の復習を取り入れ、つながりを大切にしながら指導する。<br>・フォローアップシート等を活用して、習熟を深める。               |
| 図形     | 平均正答率は、市の平均を3.7ポイント、県の平均を4.5ポイント上回った。<br>○360°より小さい角の大きさを求める設問では、校内正答率が90.4%で、県の平均を15.7ポイント上回った。<br>●面積の単位の関係を説明する設問では、県の平均を上回ったが、校内正答率は35.6%と低く、無回答率も16.4%と高かった。 | ・面積の大きさについての感覚を身に付けるために、身の回りの物の面積を調べる活動を取り入れるなど、日常生活と関連付けながら指導する。<br>・フォローアップシート等を活用して、習熟を深める。                                      |
| 変化と関係  | 平均正答率は、市の平均を5.3ポイント、県の平均を6.5ポイント上回った。<br>○伴って変わる2つの数量の値を求める設問では、校内正答率が87.7%で、県の平均を2.4ポイント上回った。                                                                    | ・伴って変わる2つの数量の値を求めたり、○や□を用いて立式したりする問題に継続的に取り組ませる。<br>・フォローアップワークシート等を活用して、習熟を深める。                                                    |
| データの活用 | 平均正答率は、市の平均を8.8ポイント、県の平均を9.4ポイント上回った。<br>○折れ線グラフの読み取りの設問では、校内正答率が83.6%で、県の平均を5ポイント上回った。<br>●折れ線グラフや表の求め方を説明する設問では、県の平均を上回ったが、校内正答率は43.8%と低く、無回答率も12.3%と高かった。      | ・グラフや表から問題を読み取り、理由を説明する力を身に付けるために、自分の考えを筋道立てて説明する機会を多く設ける。また、一人一台端末を用いて、多くの友達に考えを共有し、分かりやすく説明する意欲を高める。<br>・フォローアップシート等を活用して、習熟を深める。 |

宇都宮市立峰小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー      | 64.0 | 58.1 | 57.2 |
|     | 生命・地球         | 75.8 | 71.1 | 70.0 |
| 観点  | 知識・技能         | 78.9 | 75.5 | 74.4 |
|     | 思考・判断・表現      | 60.3 | 52.7 | 51.9 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 51.1 | 42.4 | 41.7 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は、県の平均を6.8ポイント、市の平均を5.9ポイント上回っている。</p> <p>○「物と体積の力」についての設問2題では、県の正答率をそれぞれ5.4ポイント、4.8ポイント上回った。</p> <p>○「物のあたためり方」についての設問3題では、県の正答率をそれぞれ12.3ポイント、2.9ポイント、5.8ポイント上回った。</p> <p>●「物の体積と温度」について、温度による物の体積の変わり方をりようしたものを指摘する設問では、県の平均正答率を8.8ポイント下回り、38.4%と低かった。</p> <p>●「水のすがた」について、湯気は液体であることを理解しているかを問う設問では、県の平均正答率を19.1ポイント上回っているが、34.2%と低かった。</p>                                                                            | <p>・めあてや学習問題をしっかりと捉えさせ、児童が問題意識をもって実験に取り組み、予想や結果をもとに理解や考えを深めていけるようにする。</p> <p>・少人数グループで実験を行うことで、実感を伴った理解ができるようにする。</p> <p>・実験で分かったことを身近な生活の場面と結び付けて考えさせることで、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる。</p> <p>・学習内容や場面に応じて、ICT機器や視聴覚教材を適切に活用し、理解を深める。</p> <p>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p> |
| 生命・地球    | <p>平均正答率は、県の平均を5.8ポイント、市の平均を4.7ポイント上回っている。</p> <p>○「自然の中の水」についての設問2題では、校内正答率がそれぞれ94.5%、82.2%で、県の正答率を7.4ポイント、8.9ポイント上回った。</p> <p>○「雨水のゆくえと地面のようす」について、実験の結果をもとに、土の粒の大きさと水のしみこみややすさの関係を記述する設問では、県の正答率を16.9ポイント上回った。</p> <p>●「1年間の動物の様子」について、オオカマキリの冬の越し方を理解しているかを問う設問では、県の平均正答率を6.4ポイント上回っているが、ツバメの1年間の様子を理解しているかを問う設問では、県の平均正答率を7.3ポイント下回った。</p> <p>●「天気の様子と気温」について、記録温度計の記録から天気の変化を推測する設問は、県の平均正答率を8.3ポイント上回っているが、39.7%と低かった。</p> | <p>・温度の変化を観察するような場面では、観察結果を表に記入したり、グラフで表したりする活動を通して、視覚的に変化の様子がとらえられるようにする。</p> <p>・実験結果や調べたことをもとに、分かりやすくまとめたり、自分の考えを書いたりする活動や、相手に伝えるように説明する活動を積み重ね、表現する力が身に付くようにする。</p> <p>・学習内容や場面に応じて、ICT機器や視聴覚教材を適切に活用し、理解を深める。</p> <p>・フォローアップシート・弱点克服シートを活用して、習熟を深める。</p>              |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                             |

# 宇都宮市立峰小学校 第5学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の設問では、肯定的な回答の割合が県の平均を6.3ポイント、市の平均を5.1ポイント上回っている。「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の設問では、肯定的な回答の割合が県の平均を10.7ポイント、市の平均を10.8ポイント上回っている。授業中も意欲的に調べ学習に取り組んだり、積極的に話合いに参加したりする姿が見られる。今後も児童の探究心を大切にしながら学習する楽しさを味わえるように、継続して指導していく。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の設問では、肯定的な回答の割合が72.6%で、県の平均を11.4ポイント、市の平均を8.9ポイント上回っている。授業でも一人一台端末を使って調べ学習を進めたり、調べたことをまとめたりする活動を取り入れている成果と考える。今後も引き続き指導していく。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の設問では、肯定的な回答の割合が86.3%で県の平均を8.1ポイント、市の平均を7.3ポイント上回っている。今後も自分の考えと比べながら友達の意見を聞いたり、友達の意見から新たな考えを見出したりできるように指導していく。

●「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれぐらいの時間読書しますか」の設問では、「全くしない」の回答割合が28.8%、「1か月に何さつくらい本を読みますか」の設問では、「1さつも読まない」の回答割合が12.3%となっている。本の紹介をしたり朝の読書の時間を充実させたりするなど、学校図書館司書と連携を図りながら読書の楽しさを味わわせていくようにする。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の肯定的な回答の割合は、50.7%で、県の平均を14.9ポイント、市の平均を13.8ポイント下回っている。「家で、学校の宿題をしている」の肯定的な回答の割合は、97.3%と高く、家庭学習の習慣はよく身に付いている。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的な回答の割合は、69.9%で、県の平均を11.4ポイント、市の平均を8.1ポイント上回っていることから、テストの間違いを振り返って勉強することの大切さを再度確認し、家庭学習に取り入れるように指導していく。

## 宇都宮市立峰小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                  | 取組の具体的な内容                                                                                                  | 取組に関わる調査結果                                                                                                     |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学んだことを工夫してまとめたり、自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力の育成 | 様々な場面で書く指導の充実を図っている。学年の実態に応じて、書くテーマや内容項目、字数など条件に合わせた作文指導を行っている。                                            | 4・5年生ともに国語科の書くことの領域における正答率が県や市の平均と比べて6ポイント以上上回っている。また、実験結果やグラフ等の情報をもとに根拠を明らかにして書く設問の正答割合は、県の平均を10ポイント以上上回っている。 |
| 家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫                       | 年度初めに「家庭学習の手引き」を作成し、その中で曜日ごとの学習時間の予定を立てるなどして、計画的に学習に取り組めるように支援している。また、家庭学習ががんばり週間を設け、継続的な家庭学習への取り組みを促している。 | 4・5年生ともに、「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に解答した児童の割合は94%以上だが、自ら取り組む態度に関わる「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定的回答の割合は65%未満で県や市の平均を下回っている。 |